

北鹿の学び舎から

修了生、在校生、学校の今

秋田職業能力開発短期大学の

これまでとこれから

私たちが取り巻く社会情勢は大きく変化していますが、近年の流れとして重点投資分野に「人への投資」が挙げられていくことはよく知られた事実です。令和3年11月には3年間で4000億円を、令和4年10月には5年間で1兆円を投じると表明され、リカレント教育や職業訓練等のさらなる拡充の方針が示されています。また、DX（デジタル）やGX（グリーン）

モニアの製造、地熱エネルギーの多面的な活用ならびに地熱発電の継続的な導入拡大、

鉾山技術を転換し発展させた都市鉾山（アーバンマイン）の促進など将来が期待されるものがいろいろと現れるようになってきました。そして、これらの進化のために不可欠なものは言うまでもなく「人」であり、優秀な技術者及び技能者の育成は喫緊の課題となっています。秋田職能短大は厚生労働省所管の短期大学であり、誕生以来、約30年の年月が経過しました。その間、実践技能者の育成や在職者訓練等を通じた「ひとづくり」を使命として運営してきましたが、先に書いたことから容易に理解できるように、その重要性は今後ますます高くなるものと思われ

スフォーメーション」といった大きな変革の中では、「人」の投資を通じた付加価値の向上が極めて重要であることも指摘されています。近年、秋田県では様々な動きが活発になりつつあり、例えば、強い風と遠浅の海底を利用した洋上風力発電の促進、それに関連するサプライチェーンの確立、再生可能エネルギーで生じる余剰電力を利用した水素またはアン

秋田職業能力開発短期大学校

校長 中村 雅英



踏みえた訓練カリキュラムの開発や見直しにも取り組む必要があります。本年度は、まだまだ発展段階にある本校の新たな歴史を切り開くような在校生または修了生のコラムを中心として掲載させていただきますことになりました。本校は今後とも、秋田県、大館市、大館商工会議所、大館北秋商工会、産業界、そして地域の皆様と密接な連携を保ちながら発展してゆきたいと考えております。在校生や修了生の近況を知っていたら、これからも皆様からの温かい御支援を賜れば幸いです。と考えております。